

令和2年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	15	学校名	茨城県立小瀬高等学校			課程	全日制		学校長名	内桶 二郎						
教頭名	渡邊 英一		小沢 浩						事務(室)長名	栗林 長武						
教職員数	教諭	18	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	9	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	42
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計(クラス数)			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		16	9	13	17	34	23			63	49	112 (4)			

2 目指す学校像

- 小瀬型学力を学校教育全体を通して身に付けさせる。
- ・生きる力を育み、心身ともに健全で調和のとれた人間形成のできる学校
 - ・生徒一人一人が確かな学力を身に付け、希望の進路を実現できる学校
 - ・社会の一員としての自覚を促し、社会規範の涵養を図る学校
 - ・連携中と共に、地域に根ざした教育活動を一層推進し、地域に貢献できる人材を育成する学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・入学段階で基礎学力の定着に課題がある生徒が多い。 ・義務教育段階の基礎的な学習内容を確実に定着させるとともに学習意欲を高め、高等学校の授業に円滑に移行させる指導を必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・家庭学習の定着 ・魅力ある授業展開の工夫 ・個に応じた指導の工夫
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した計画を立て、進学、就職ともに3月末まできめ細かな指導を行った。就職内定率は17年連続100%を達成し、卒業生が国公立大学に1名合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚 ・早期からの進路に対する準備 ・希望する進路の実現
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた生活ができており、指導件数も少ない。通信機器の適切な使い方と交通事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の育成 ・交通ルール遵守意識の高揚
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となって、各種行事の準備ができた。 ・昨年度は体育祭を成功させることができたが、本年度も生徒が主体的に活動する場を設定する。 ・個々の活動を整理し、キャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動及び学校行事への積極的参加を促進 ・生徒のリーダーシップの育成 ・キャリア・パスポートの活用
中高一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業(スポット的授業)、部活動交流等の更なる充実を図るために、教職員の連携を密にして交流事業の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポット的授業の充実・改善 ・生徒交流事業の充実と地域貢献活動 ・相互授業参観による教員交流の充実
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働本部による放課後の学習指導等地域人材の活用により、教員の負担軽減を行っている。 ・ICTの活用について、今後も継続した検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働本部の活動の促進 ・ICTの活用促進 ・カリキュラム・マネジメントの充実

4 中期的目標

<p>○シラバスに示した小瀬型学力の實現を目標とする。(全教科で意識して指導する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学路の進路指導を充実させ、あいさつ会、地域中学校の情報発信の業務の適正化の観点や、計画の機能性を高めカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 ・進路指導の充実とあいさつ会、地域中学校の情報発信の業務の適正化の観点や、計画の機能性を高めカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 ・あいさつ会、地域中学校の情報発信の業務の適正化の観点や、計画の機能性を高めカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 ・生徒会、部活動等の対外的な活動の自主的な運営を指導し、主体的に生きる力を育成する。 ・中高連携を模索し、推進する。 ・地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・カリキュラム・マネジメントの充実を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、数学、英語の小テストや放課後学習を効果的に実施して学習意欲と基礎学力を向上させる。 ・生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。 ・基礎学力を向上させる授業の進め方を研究する。
希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深めるとともに将来の生き方や職業について考え、自己を生かした進路実現が達成できるよう導く。 ・キャンパス見学、職場見学、インターンシップなどの体験的な学習を通し社会に適応できる力を育む。
規範意識の向上 あいさつの励行	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止を努める。 ・毎月服装指導を行う。頭髪を始め制服の正しい着こなしを生徒に定着させる。 ・登下校、授業開始と終了及び清掃時のあいさつの指導を徹底する。
生徒の主体的な活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動がより主体的になるよう、事前指導を行う。 ・新入生に入部を勧め、部活動をより活性化させる。 ・生徒会を主体とした球技大会、文化祭等を実施する。
中高一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・連携中学校及び近隣中学校、地域社会に積極的に情報を発信し、本校への信頼や関心を高める。 ・中高一貫教育推進委員会を効率よく機能させるようにする。 ・生徒交流事業の充実と、地域に貢献できる生徒を育成する。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働本部による放課後の学習指導等において地域人材の活用を推進する。 ・業務の適正化の観点や、計画の機能性を高めカリキュラム・マネジメントの充実を図る。